第Ⅳ部門　　神戸・北野界隈における地域特性の把握

大阪工業大学工学部　学生会員　○仲谷恭平
大阪工業大学工学部　　岡前拓也
大阪工業大学工学部　正 会 員　　吉川　眞
大阪工業大学工学部　正 会 員　　田中一成

１．はじめに

神戸市は，奈良，京都，大阪と並んで関西を代表する全国区の観光地である．南に神戸港，北に六甲山系という具合に海と山に挟まれた東西に長い市街をもち，整然とした区画のもと市街が形成されている．その都市景観の美しさから，2007 年には「世界で最もきれいな都市トップ 25」にも選ばれた．また，神戸市が 2003 年に行ったイメージ調査では港が 30.2%，次いで異国情緒が 28.7%，おしゃれなファッションが 15.6%となっており，これらの要素が神戸の魅力として認知されている．

そのなかで北野地区は，1977 年の NHK 連続テレビ小説「風見鶏」の放送をきっかけに，異人館ブームが起こり，住宅地でありながら全国的に有名な観光地となった．神戸市の異国情緒というイメージを一手に担ってきた地区である．つまり，観光地として神戸のイメージを形成する重要な地域であることが伺える．そこで本研究では，この北野地区に着目し神戸・北野界隈のイメージ形成の一端を明らかにすることを目指して，研究を展開する．

２．研究の目的と方法

都市のイメージを形成する上で，行政区域による地域の境界は意味を持たない．空間の物理的繋がりや周辺環境により対象範囲を定めることが重要であるといえる．そこで，本研究では，北野地区を中心に周辺の環境をもとに研究の対象範囲を定め，北野界隈の地域特性を把握することを目的としている．

研究の方法としては，GIS（Geographic Information System）を駆使し，土地利用特性，地理・視覚特性，観光行動特性という３つの異なる視点から調査・分析を行い，北野界隈における特性の把握を試みる．土地利用特性では，現地調査を行い，それを GIS 上に表現して土地利用現況データベースを構築し，北野の特性を把握する.地理・視覚特性では，３次元情報を有した都市モデルを作成し，地形的特徴やそれによる見えの変化，傾向を把握する．観光行動特性では，観光誌や観光サイトなどを調査し，既存の観光ルートを把握する．その上で実際に人々がどこを訪れているのか調査し，それらの関連性を見ることで北野界隈における観光行動を把握する．

３．対象地の選定

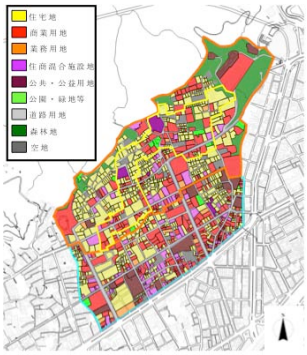
北野地区の外，JR 三宮駅周辺や駅から北野地区へ上る坂道沿いにも「北野」という名前が見られ，北野が周辺にも大きな影響を与えていると考えられる．そこで本研究では，対象地を北野界隈として，その範囲を独自に決定した．具体的には，ネットワークに着目し北野へ続く４本の坂道の始まりとなる山手幹線より北側から山際まで，東西においては北野へ上る坂道のなかで西端にあるトアロード沿い周辺，東端にある不動坂沿い周辺の範囲を北野地区に加えて北野界隈とし，研究対象地とした．

図－１　対象範囲

Kyohei NAKATANI，Takuya OKAMAE，　Shin YOSHIKAWA and Kazunari TANAKA
pepepenope0423@gmail.com

4. 地域特性分析

①土地利用特性：現在の北野界隈がどのような地域なのかを把握するために調査を行い，北野界隈の土地利用を調査した．具体的には，まず敷地境界を調査し，GIS 上に展開した．その上に現況の土地利用情報を与えた（図－２）．北野地区内は住宅地が多く，西側に多く見られる．また，界隈の範囲では商業用地が多い．全体をみると東側が商業用地となっているところが多いが主要な坂道沿いにはこれらの傾向はあてはまらず，商業用地となっているところが多いなど，この地域の傾向をみることができた． また，建物構造も調査しており，伝建地区内に木造建物が多く，保存されていることが把握できた．

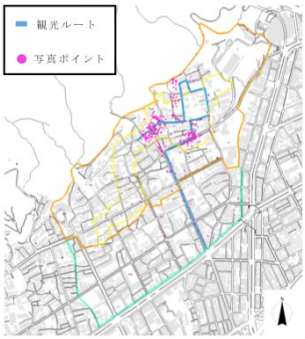


図－２　土地利用

②地理・視覚特性：北野界隈は六甲山系の麓に位置しており，起伏に富んだまちとなっている．さらに宅盤の造成なども加わり，視点位置によって見えが全く異なることが考えられる．そこで，既往の研究で構築されていた DSM（Digital Surface Model）を用いて可視・不可視分析を行った．視点場には街路を選択する場である交差点を選定している．具体的には，北野界隈内の全交差点に視点高さ 1.5m のポイントを配置し，可視領域を算出した．その結果，可視領域が極端に大きいポイント，小さいポイントにそれぞれ傾向が見られた（図－３）．可視領域が大きい値を示すポイントは坂道上に多く見られ，逆に小さい値を示すポイントに路地内で集積する傾向にあることが分かった．

図－３　可視領域ポイント

③観光行動特性：既存の観光ルートを把握するため，北野界隈を紹介している観光ルートを観光誌や観光サイトをもとに調査した．その結果，さまざまなルートがあるがどれも東側に多く，公開されている異人館を巡るルートが多い傾向にあった．次に，実際に人が訪れているルートを把握するため，写真コミュニティサイトから撮影画像の位置情報を抽出し，GIS 上に展開した．これらをオーバーレイしたものが図－４である．これを見ると紹介されているルート上に写真撮影ポイントが集積していることが把握できた．ポイントの集積が見られるのは公開異人館の周辺だが，坂道上にもポイントが見られた．



図－４　ルートとポイント

５．現地調査

さらにシークエンス景観に対する考察を試みるため，現地に赴き，調査した．具体的には分析結果より選定した観光ルートに沿って 20m 間隔で写真撮影を行っている．その一例として，上りで山が見え，狭い路地に入り，下りに差し掛かると神戸のまちを通して海を見下ろすことができた．このようにシークエンスによって景観が著しく変化することが観光的な魅力になっていると考えられる．

図－５　現地調査図

図－６　現地調査画像一例

６．まとめ

３つの結果を見るとそれぞれが関連していることが分かった．この関連を整理し，解き明かすことで個別ではなく統合的な北野界隈における地域特性の把握を行った．今後の展開として，これらの関連性をみるとともに，シークエンスの観点から分析を展開していきたい．

【参考文献】神戸市文化財課：異人館のある町並み北野・山本，イディ出版，2000